

アクティベーター・メソッド

新連載

Vol.1



保井 志之DC



アクティベーター・メソッドとは

アクティベーター・メソッド（以下AM）の創始者の一人であるドクター・ファーとの最初の出会いから、二十数年の歳月が経ちました。私はこのテクニクとの出会いをきっかけに、カイロプラク



保井 志之DC

ティックの本質や自然治癒力を基本にした治療法の本質に深く迫ることができ、代替医療の治療家としての誇りと確信を持ち続けることができました。私の治療家人生の中ではとても大きな出会いの一つになっています。今回、カイロタイムズさんからのご提案で、AMの連載記事を担当させて頂けることを光栄に思っております。

AMのことはすでにご存じ

の方が多いのではと思いますが、このコラムを通じて私なりに解釈したAMの魅力をさらに幅広く、そして、奥深くお伝えすることができればと願っております。まずはAMの創始者である二人のDC、故・ドクター・リーとドクター・ファーをご紹介します。故・ドクター・リー（1914年生まれ）はノース・ウエスタン・カイロ大学を卒業し、ローガン・ベイシック・テクニクやタフネス・テクニクを学んでミネソタ州で開業していました。ドクター・ファー（1939年生まれ）は、13歳の時に慢性的な喉の痛みでドクター・リーのクリニックを訪れ、タフネス・テクニクの施術を数回受け、喉の障害を克服しました。それ以来、ドクター・ファーはカイロプラクティックの道に進む決心をしました。

ドクター・ファーはローガン・カイロ大学を卒業し、合衆国海軍の兵役を終えた後、ドクター・リーのクリニックで、アソシエイト・ドクターとして働くことになりました。二人のドクターは、ローガン・ベイシックとタフネスの両方のメソッドを統合したものを実践して、患者の矯正前と矯正後の脊柱の状態をより適切に判断する実践的な方法を模索していました。ここで大切なことは、矯正前と矯正後の明確な判断基準を模索していたということです。その判断基準が現在使われているAMの下肢長検査法なのですが、そこに至るまでの過程はとても興味深いところではあります。そのあたりのことを次回のコラムで触れてみたいと思います。

保井 志之（やすい ゆきのぶ）DC プロフィール

1962年福岡県生まれ。明治鍼灸短期大学（現・明治国際医療大学）卒業。大東医学技術専門学校卒業。米国アイオワ州のパーマ・カイロプラクティック大学卒業。2001年よりAMI社公認アクティベーター・メソッドセミナー開催。AMI社公認日本地区ディレクター。2005年より心身条件反射療法（ニューロパターンセラピー）研究会開催。2009年ICC国際コーチ連盟認定コーチ養成トレーナーとなりICC認定コーチ養成講座開催。著書に『体の不調は脳がつくり、脳が治す』がある。